

モンゴル民族文化基金2010総会の報告

2010年9月12日、午後2時ごろ、日本橋にある株式会社ジャパンラーニングの会議室で2010年度モンゴル民族文化基金総会が行われた。総会では、第一部として四期目理事会の理事長でムンクデルゲル氏より2年間の活動報告を行い、続いて会計部担当のガンドシ氏と奨学金部担当ヘシゲバヤル氏よりそれぞれ会計および奨学金支給に関する詳細な報告が行われ、第二部では五期理事会を選出した。

ムンクデルゲル理事長の報告によると、次の5つの活動が行われている。

1. 奨学金実施 従来の対象校に対し奨学金を実施。二年間で計45ヶ所の学校の135名の生徒に135万円の奨学金を届けており、一部支給が遅れている学校には引き続き実施中である。

2. 学術交流会 ここ二年間で計三回開催。基金の活動の中でもっとも定着している活動となっており、学術的にも各方面の関心を引いている。

3. 大型イベント 2008年12月6日から24日にかけて日本大学文理学部主催の「草原の国から海を渡って－日本・モンゴル展」に協力し、成功に導き、基金の活動を社会全般に宣伝できた。

4. チャリティーコンサート 2009年6月に北区の北とぴあで大型コンサートを実施。日本を代表するアーティストが多数参加し、大盛況だった。しかし、十分な計画性を欠いたため、奨学金の資金を獲得するという基金のもっとも重要な目標は達成できず、多くの課題を残した。これは今後活かされるべき一つの経験となったと思う。

5. 宣伝・広告について 2009年6月にコンサートの開催に合わせて、内モンゴルテレビ局の特別取材班が来日し、基金のチャリティーコンサートなどに関する番組を作成し、放送したことは中国における基金の宣伝に大きな効果があった。基金の公式ホームページも作り直したものの、内容の更新があまり行われず、十分活かされなかった点は反省すべきものであり、今後力を入れていかなければならない。

二年間の反省点として、会員拡大、奨学金の資金の獲得、HPの改良などにおいて不十分な点が多く、次期理事会で引き続き協力し合って改善していく必要がある。

会計部の報告によれば、現在236万ほどの残高はあるものの、会費などの収入が少なく、10月末のコンサートの出費、来年度の奨学金の支給などを考えれば、今後いかにして資金源を確保していくかが大きな課題となっている。特に会員の拡大は、会費を取るためだけでなく、多くの会員を参加させることによって、広く基金の活動を理解してもらい、次世代の育成にもつながる問題として捉えるべきである。

奨学金の報告によると、現在支給している対象校は、基金の奨学金提供をありがたく受け止め、継続的な提供を希望しており、奨学金の支給も順調に進んでいる。奨学生からの作文からは基金に関する感謝の気持ちが読み取れるので、今後HPに順次掲載していくことが大事である。さらに、各地で基金の奨学金をもらいたいと希望する学校も多く、こうした状況に基金がどのように対応していくべきかが今後の課題である。

理事長をはじめとする各報告が終了した後、参加した理事から積極的な発言があり、非常に有意義な議論が行われた。その後、現理事長より四期理事会の解散を了承し、五期理事会の選出を行った。

まず、司会・進行のバー・ボルドーより立候補した27名の理事を紹介し、また推薦者より新しく立候補した8名の理事について説明を付け加えた。前理事会の理事たちの中からは、帰国または辞退した理事を除き、19名が再度立候補した。

参加者の無記名投票により、下記の理事が五期理事会の理事に選出された(五十音図順)。

アルタン(女)、石邨善久、ウラン(女)、オーダム、ガンドシ、ガンバガナ、ゲゲンオヤング(女)、ゲレル(女)、ゴイハン(女)、ソヨルト、チャスナ(女)、チョクト(小)、テグス(呉人)、トブチチグ(女)、ノミン(女)、ヒシグバヤル、包聯群(女)、ホンメイ(女)、バー・ボルドー、プリンチング、ブレンサイン、マンドラ、マンドブイン(女)、ムンケデルゲル、メロゲンボラグ

今回の理事会は、男性理事14名、女性理事11名からなり、女性理事の活躍が期待されている。また新しく立候補した8名がすべて当選したほか、理事会にはじめて日本人理事(日本国籍取得者を除く)が加入した。

五期理事会の発足後、直ちに理事長の選出を行った。基金の定例としては理事長は、理事会から立候補し、2名以上の立候補者がいる場合は理事会の投票で当否が決まることになっている。今回は、ガンドシ理事が立候補し、そのほかに立候補者がいなかったため無投票で五期理事長に選出された。新理事長は従来の理事長の中でもっとも若く、また今期の理事会メンバーも大幅若返りをしたので、在日若者とのパイプを広げられ、会員拡大への期待が強まった。

新しい理事会の当面の仕事は、10月末に行われるチャリティーコンサートの開催に向けての準備を進め、成功に導くことだ。理事会だけではなく、在日モンゴル人が力をあわせて基金の発展に貢献したいと思う。

どうか皆様のご支援とご協力を切に願いたい。

(文責 バー・ボルドー)